

# 遊び、好奇心から始まる知ることの喜び

## — 『調べて遊ぶ楽しい研究』 —

橋本賢二

### 調べることに楽しみを

【楽しく学ぶことこそ長く続くコツ、深くまで行ける入口。研究や調査が退屈ではその報告もつまらない。楽しみながら学べたらサイコー、得ることがなくなるといいじゃないか】

嫌いなことを押し付けられたら、誰しも力は半減、きっと自発的な部分が消えてその仕事は魅力のないものになるでしょう。近年人々は仕事の出来具合に対し高いレベルの要求をするようになって来ています。そして労働者はすべての職場において顧客、クライアント側からいつも厳しい目を向けられています。仕事の質は昔より相当高まっているのに、予算は削減され儲けは少ない。たとえばそれが住んでいるマンションの修繕工事なら、安くてきれいで長持ちして品質がよく体に無害、さらに工事中の安全への気配り、プライバシーへの配慮は当然のこととして、さらなる追加のサービスを求められることもあるでしょう。飲食店他さまざまな店舗ではアルバイトが従業員の中心になってきているにもかかわらず、訪れる客からの細かな注文は増え、対応への不満はつのる一方。

さらに職場には自己反省を求める風潮も広がり、その日起きた失敗を全員で批判しあう時間が設けられたり、客に対応を採点させ、届く苦情を直接従業員に伝え反省を求めたりするシステムを採用している企業も少なくはありません。それが企業努力というものでしょうが、人間本来の向上心というものは批判されるばかりでは育ちません。

「今日のいけなかったところは〇〇だ。反省しろ」「自分で間違ったところを書け」ばかりでは、ただでさえ疲れている人々にとって、プラスの効果は何もない。疲弊しまっている人々はさらに腐ってしまうことでしょう。無理やりさせられることの中から良い仕事は生まれません。ただでさえ緊張している状況で厳しい目を向けられ、それを強く意識しすぎたなら、人は堅くなり思うように動けなくなるもの。

\* \* \* \*

あまり報道されていないが、日本の若者の自殺率は極めて高い。窮屈な時代に生まれて、先の見えない世界で、成長を期待できない時代を生きなければならない人々の尻をそれ以上叩いても、更なる利益は生まれないのではないだろうか。

「本日お客様からお褒めいただいたスタッフは〇〇さんです。おめでとう」

「こちらから言わなかったのに、・・・をしてくれて嬉しかったと書いてあります」

「ささやかな気遣いで助かりました。また利用したいと思います。名札には〇〇と書いてありました」

人はこんなちょっとしたはげましで嬉しく感じ、更なる努力を自ら重ねていこうとするものである。

今年はその時代風潮のなか、「楽しみながら何かを研究することが、イヤイヤ押し付けられた仕事をやるよりもいい結果を生む」ということを証明するような活動を学生たちにも経験してもらいたいと考え、論集のタイトルも早々と『調べて遊ぶ楽しい研究』とすることに決めた。しかしなかなかその展開を規定する具体案は浮かんでこないままだった。

さまざまな要因により教師も時間に追われゆっくり研究をする時間もない忙しさ。時代に翻弄される学生は、将来に備え何かを身につけ技術を蓄えるべき時期に、目先の忙しさに流され、自分の姿を顧みて自己を知る機会さえ得られない。かつては考えられなかったことだが、ハーバード大学でも試験のカンニングが大量に発生した。いろいろな不正ツールが出現してきているのだから、自動車運転免許試験でも入学試験でもそれを利用しようとするのが人間の本性である。それを咎めることはできない。経済格差が広まり、国家に対する信頼が失われてしまった時代に、人々は最後の命綱である金銭に執着し、そこへ直結する道を急いでいる。

どこの大学でもカンニングが増えてきている。時代がそれを生み出す下地を作ってしまったのである。見つかったことはいけなかったが、必ずしもそれをいけないことと思っていない点が問題である。研究においても既存のデータがあればそれを利用すればそれでよしとする風潮、それらをつなぎ合わせてそれらしく見れば提出物としてはいいとする考えが横行している。それは学位論文レベルまで浸透し、履歴書でさえ偽り、ネット詐欺、振り込め詐欺でもだまされるほうが悪いという考えが普通になりつつある。さまざまな分野において、本質を見ずひとつの基準に従って測定し、それに合えば合格・優秀とする「数字を優先する幻想社会」の到来が起きている。

それらに対してどんな行動が取れるのか。結果ばかりを求めても仕方ない、画一的な人間になるな、自分らしくあれ、自分らしさをだせと主張しても唇は妙に寒々しい。

【遊びの中にリラックスして力を発揮する機会がある。まず自分らしさが出る好きなことを考えてみよう。その中で要求に合致する、少なくとも要求の及第点が取れるオリジナルな方法を捻出してみよう。人のマネではないこと、それがいつか他人が真似できないことになる。こじつけを考えよう、いいわけをしながら目標地点ににじり寄れ。ただし必ずやり遂げよ、やり遂げたもののみ味わえる幸福感、達成感を自分のものとせよ。一度成し遂げたときそれは力と自信となる。そして怯えは薄れ次回に大きな力を発揮するだろう】

こんなことが体験できる方法を考えてみたい。

本のタイトルと大きなテーマが頭の中では以上のように定まったのだが、具体的な手法はなかなか浮かばないまま時だけが過ぎていった。

### 学生変動への対応

とりあえず担保として、前期に行なったヘミングウェイの作品に関する感想をデータとして収集しておくことにした。また授業でみた映画に関する感想データもできる限り保存収集しておくことにした。

以下が作成した資料。

## 前期試験完了に向けて

次のデータを添付して E メールで 7 月 22 日(日) 13:00 までに送付提出した者を受験完了者とする。(メール本文に貼り付けないように)

・提出データ

- ①本日紙媒体で提出した「映画(評論)」。(修正可)：その場合本文に 修正あり と記載する。
- ②すでに紙媒体で提出した「白い象のような山並論」。修正について：原則、誤字、脱字、間違い、文章修正等のみでよい。微修正可。下記も参照。

- ・メールタイトルに科目名・氏名「前期試験データ」(修正なし/あり) と記載。
- ・メール本文にもう一度、科目名・学籍番号・氏名(ふりがな)・各論の修正あり/なしを記載する。

[添付忘れなどあるので、提出後は返信を確認すること。また定期的にメールをチェックするように]

- ・あて先 橋本賢二(教育用メールアドレス)：×××××@××.××××.××.××

\*注意：シラバスにあるアドレスへは送らない。(研究用でccとなっているので間違えないように。exの方へ送る)

.....

## 上記二篇の論集への掲載について

これらの提出物を論集に(引用)掲載することを検討しています。メイン・レポートに入る前のイントロダクションとして、「白い象論」を紹介しながら前期授業を振り返り、一連の流れを呈示していくことを考えています。

楽しい論集を目指しているので、イキイキとした活力ある新鮮な息吹が感じられるみずみずしく愉快的論考のままで結構です。

また人数の関係で論集のページがボリューム不足になった場合は、巻末などに「映画論」を掲載することも検討しています。この場合氏名の公開を希望しない人がいた場合は、①その人の掲載をやめるか、②全員匿名にするかということになります。判断は後に行ないます。データ提出時に「映画論の氏名削除希望」「掲載しないでください」などとメールにはっきりと記載しておいてください。連絡がない場合は原則氏名が記載されて出版される予定です。

・前期のみの受講で終わる人：今後このメールのアドレスに対して連絡を行ないますので、これ以降は定期的にチェックしてください。

上記文書を配布して後期への準備の一環とした。